

1 第3学年総合的な学習の時間の学習テーマ

「国際都市佐賀を創ろう!」(内容...「郷土」)

2 単元について

タイムは学校テーマを「国際都市佐賀を作るには」と設定し、各学年で単元(内容領域「郷土」)が計画されている。各学年で計画されている単元には系統性があり、3年生では佐賀を国際都市に発展させるための具体的なプランニングを行うために各学年でテーマを設定している。1年生では、国際都市づくりを踏まえて観光や工業、農業などの産業面から郷土のよさを見つめる。2年生では、京都を通して「国際都市」のイメージを膨らませながら、世界的に知られる名所旧跡等だけでなく、京都の新しい都市計画や国際都市に生きる人々の姿などを国際観光都市という側面から捉え、1年生で学習した佐賀のよさと比較する。3年生には、学年テーマを「国際都市の条件探し」と設定し、それまで積み重ねた学習を生かし、国際都市佐賀創るのプランニングを進めていく。このように タイムは郷土佐賀に目を向けさせることで、郷土への愛着をはぐくみ、郷土佐賀を国際都市へと発展させる具体的なプランニングをするという単元が計画されている。

さて、総合的な学習の時間に生徒が意欲的に学習を進めていくために必要なことは、単元のテーマ(以下、単元のテーマ等)に迫った課題設定ができること、学習のゴールに対する解決の見通しをもつこと、体験学習等で得た知識や技能が問題解決に生かされているという実感を得ることなどである。そのための手立てとして、本単元では、課題設定の段階で、教師の専門性を生かした講座(教科、領域等からアプローチ)と発想法を取り入れている。教科、領域等からアプローチとは、各教科等の担当教科から総合のテーマを踏まえて課題学習や体験学習を取り入れた独自の授業が仕組まれた講座のことである。各教師が教科、領域における専門性を生かし総合的な学習の時間で取扱う内容に関連づけながら、多様な情報を生徒に提示する。つまり、生徒は多面的な情報を得て豊かな創造力や発想力を生かし、課題を設定したり、問題解決をしたりして学習を進めることができる。また、ウェビングを取り入れることで、生徒は与えられた情報を整理し課題づくりをする。これらの手立てを取ることで、生徒の実態に応じて教師が意図した計画の基、生徒は興味・関心を高め、課題を設定していく中で、生徒の様々な能力を育てることができるものと思われる。

佐賀という地方は産業的にも文化的にも特に目立たず、経済基盤やも観光資源にも恵まれているとは言えない。タイムの系統的な学習の中で、そのような現状にある佐賀を国際都市へと発展させるためのプランニングは、生徒に「こんな郷土づくりをしたい」「佐賀がこんな街だったら」という夢や希望を持たせることができる。そこで、国際都市の定義を「住みやすい町」に規定し学習の見通しを立てさせたい。「国際都市」の条件には都市としての国際性、社会基盤整備の充実、治安の良さに加えて、環境への配慮、文化的な生活、交通渋滞がないなどの「生活の質」という面も国際都市の機能として必要であるとされている。教科、領域等からアプローチした講座は、講座で得た情報が課題設定する際に表れたり、問題解決の流れの中に活用できたりする講座を開設したい。さらには、国際都市佐賀創りのプランニングを一人一人が進めることから、現実的なプランニングをすることにより、生徒が自分のプランを公表できたり、自らが実践できたりするようなものに仕上げさせたい。

3 単元の目標

「国際都市の条件探し」をテーマに、自ら課題を見付け、追究の方法や手段を考え、課題解決に取り組もうとする態度や能力を育てる。

4 学習計画(3年全35時間)

タイムの学年別学習ガイダンス【2時間】

- ・ 学校テーマ「国際都市佐賀を創るには」の基、1年「郷土のいい所発見」、2年「古都京都と佐賀の比較」の学習を通して得た知識と問題解決学習の方法を確認する。
- ・ 先輩の学習物を例に学習の見通しを持つ。
- ・ 教科講座を選択するために、教科講座のオリエンテーションを受ける。

教科講座【各自2時間×2】・・・本時

- ・ 内部資源獲得のための教科講座を受講する。
- ・ 国際都市の条件を見付け、課題設定に生かすことができるようにする。

ウェビング【1時間】

課題づくり【1時間】

調査・探究活動【29時間】

## 5 単元の評価規準

学習過程	教科講座	発想法スキル	最終課題	発表・発信
評価内容	A	B	B, C	C, D

評価の観点		評価規準
A	知識・興味・関心	国際都市としての条件を具体的に見付け出し、その事を中心に考察を深めようとしている。
B	思考・判断	国際都市の条件を満たすためには実際にどのように行えばよいか、その仮説を設定する。
C	発想・創造	国際都市佐賀を作るための仮説を独創的に具体化している。
D	表現・行動	自分の考え方をわかりやすく発表したり、詳しく報告書にまとめようとする。

## 6 本時の評価規準

知識・興味・関心	「『住みやすい町づくり』で国際都市佐賀を創る」の学習過程に興味・関心を示し、学習を進めることができる。
	レクスパンション社のランキング表に自分なりのタイトルをつけることができる。
	住みやすい町の条件を考えることができる。
	「住みやすい町評価表」で佐賀を評価することができる。

## 7 社会科教師からのアプローチ

佐賀には特に目立った産業もなく、観光地としての知名度も決して高くない。また、佐賀平野に広がる田園地帯は、単なる田舎町のイメージしか持つことができないとも言える。そのような郷土佐賀に対して郷土を愛する心をはぐくみ、佐賀の発展を願う心と発展の一端を自分なりに考えて実践する力を育てることは大切なことである。現在、佐賀県知事が打ち出している「アジアのハリウッド化計画」や「筑紫大都市圏構想」などが現実化して国際都市化する可能性も考えられる。また、最近Web上にも多く公開されているのが「わが町の国際都市化計画」であり、経済誌でも都市の国際都市度を評価する内容が取り上げられている。そこでは、観光都市や工業都市、または大都市としてその機能を評価するだけでなく、「生活の質」という面から住みやすさも国際都市の機能として必要なこととして評価している。観光開発やテーマパーク建設、国際会議施設建設やその誘致など、いわゆる箱物建設で集客率を上げ国際都市化計画とする発想も大切であるが、「住み良さ」の面から国際都市をとらえることで自分たちの力や住民の力でできる国際都市化を構想する試みも大切なことであるとする。

そこで、本講座では経済誌等に公開されている国際都市としての成立要件を参考に、「住みやすい町」の条件を考えさせたい。その条件を基準に佐賀の良いところと今後課題にしなければならないところを判別することで、おのずとテーマに迫る課題が設定できると考えられる。

8 本時の展開

過程	学習活動	形態	指導上の留意点	評価
導入	<p>本時の学習の内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3学年テーマ「国際都市の条件に迫る課題設定，課題を具現化させるための問題解決の方法を具体的なプランを基に学習することを確認する。</li> </ul>	全	<p>本時の学習について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題設定は，現実的なプランを立てることができるように設定することを知らせる。</li> </ul>	
展開	<p>「住みやすい町づくり」で国際都市佐賀を創る！</p> <hr/> <p>ランキング表にタイトルをつけてみよう！</p>			
	<p>資料（レクスパンション社の「住みやすい町ランキング」）のタイトルをグループごとに予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランキング表から2～3都市を選びその都市について知っていることやイメージしたことをワークシートに記入する。</li> <li>・グループ毎にランキング表にタイトルをつけて発表する。</li> </ul> <p>「世界都市」のニューヨーク，ロンドン，パリや日本国内都市が上位にランクインしていない理由を確認する。</p>	G	<p>抽出したランキング表の中の都市の特徴をつかむことで，都市に対するイメージを膨らませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランキング表の中の知っている都市を各自2～3都市抽出し，その都市のイメージや知っていることを述べさせる。</li> <li>・知らない都市が多いことが予想させるため，教師がいくつかの都市についてその特徴などを説明する。</li> </ul> <p>全</p> <p>世界都市が上位にランクされていない理由。  「社会基盤整備の充実」  「交通渋滞がない」  「人口が中規模」  「治安の良さ」「環境への配慮」  「国際市民（異文化理解，心の寛容性，開放性）としての住民」等</p>	レクスパンション社のランキング表に自分なりのタイトルをつけることができる。
	<p>私が考える「住みやすい町」の条件を考えよう！</p>			
	<p>グループで「住みやすい町」の条件を考え発表する。</p> <p>グループから出された条件の中から，ワークシートの「住みやすい町」の評価につけ加える案を選ぶ。</p> <p>グループ毎に行った評価を紹介する。</p>	G	<p>具体的な項目を考えるように例を示し指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐賀を評価する際に適当な条件を選んだほうが評価しやすいことを知らせる。</li> <li>・深入りしないようグループに対する質問等は避けさせる。</li> </ul>	<p>住みやすい町の条件を考慮することができる。</p> <p>作成した「住みやすい町評価表」で佐賀を評価することができる。</p>
まとめ	<p>資料1「生活の質調査」にみる横浜の評価で「住みやすい町」度を確認する。</p>	全	<p>難しい項目については教師が補足する。</p>	